

NEWSWAVE

～ 新しい時代を切り拓く実践経営情報紙 ～

発行

(株)本宮会計センター

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 2 0 0 - 2

TEL 0243-33-5535 FAX 0243-33-4467

高度な施設型農業「スマートアグリ」 植物工場、200ヶ所に拡大、3割黒字化

植物工場は日本国内で 2009 年の 50 ヶ所から 200 ヶ所（2015 年 3 月時点）に急速に拡大している。

植物工場は高度な施設型農業の一形態で、光・温度・湿度・CO2 濃度・水分・養分などの生育環境を人工的に管理し、年間を通じて計画的な収穫を目指していく栽培施設だ。

植物工場には、閉鎖環境で太陽光を使わずに環境を制御して生産を行う「完全人工光型」と温室等の半閉鎖環境で太陽光の利用を基本として、雨天・曇天時の補光や夏季の高温抑制技術等により生産する「太陽光利用型」の 2 つがある。いずれも、コンピュータを用いて積極的に生育環境をコントロールする。

具体的には、栽培者が制御盤を用いて制御用コンピュータにて環境設定を行うと、各種センサで生育環境を把握し、温湿度であれば空調機養分であれば追肥装置などを用いて計画的にコントロールする。植物工場の要素技術に関して日本は世界のトップレベルであり、植物工場でのセンサ・モニタリング技術や制御技術などの中には、製造業（生産システム）における技術が適用されているものも多い。

現状では実証用の小型施設も多いが、約 3 割の施設で黒字化を実現している。これこそ植物工場などの「スマートアグリ」の一完成形で、「勘と経験」から「科学と実績」に裏打ちされた計算できる農業経営へと向かっている。

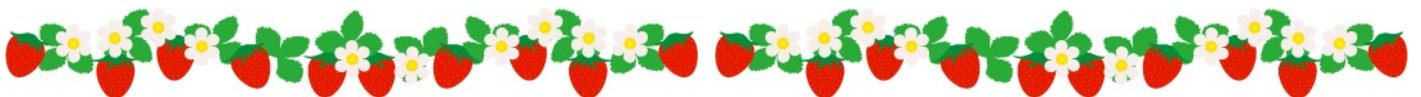
申告書は 8 割が「自力で作成する」 難しいのは「申告書の記入・作成」

2 月 16 日からいよいよ確定申告が始まったが、お金のプラットフォームを提供するマネーフォワードが、2016 年に確定申告をする 1042 名を対象に実施した「確定申告に関するアンケート調査」結果によると、申告書の作成については、82%と 8 割以上の方が「自力で作成する」と回答。「会計事務所に申告前にまとめて依頼する」（5%）や「普段から会計事務所と顧問契約している」（4%）は少数にとどまった。

また、申告書の提出については、「税務署に持参する」（41%）という回答が全体の 4 割を占めたが、「電子申告（e-Tax）利用」（28%）については男女差がみられ、男性は 32%で女性（16%）の 2 倍の回答数が得られた。

確定申告について「難しい」との回答は全体で 46%だったが、男性の 44%に対し、女性は 58%が「難しい」と回答。最も難しいことは、「申告書の記入・作成」（15%）が 1 位。申告書は種類が多いため、該当する書類を適切に選び、記入欄に正しく記入する必要があるため、難しいイメージを持つ人が多いようだ。以下、「領収書や請求書の保管」（14%）、「使ったお金を経費に含めるかどうかの判断」（12%）だった。

確定申告をする上で、最もわずらわしい作業（3 つまで回答）でも、トップは「申告書の作成」（28%）になり、申告書の記入が難しさの要因になっていることが分かる。



弊社では「MCS NEWS WAVE のメール配信」を促進しております！！

メールアドレスをご記入のうえ、0243-33-4467までご返信ください

メールアドレス

@

FAXの印字状況により、文字が読み取りにくい時は確認の為、当社よりご連絡をする場合がございます。

ご不要の場合または、該当者がお出でにならない場合は、FAXを返信頂ければ次週より配信を停止致します。